

○ 横浜市は、月島JFEアクアソリューション(株)と共同で、下水汚泥からリンを効率的に回収する技術実証を実施。得られた再生リンを肥料原料として利用するようJA横浜・JA全農かながわと連携。

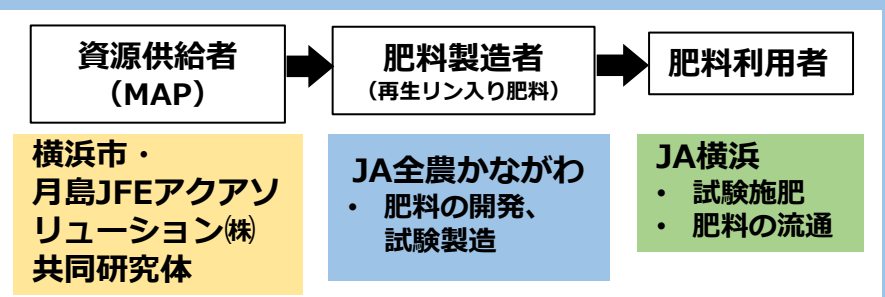
国内資源の種類

下水汚泥（横浜市北部汚泥資源化センター）

肥料の種類・肥料名称・保証成分

種類：りん酸マグネシウムアンモニウム（MAP）	
名称：よこはまMAP1号	
保証成分量(%)：アンモニア性窒素	4.0
く溶性りん酸	20.0
く溶性苦土	11.5

主たる取組主体と肥料利用までの流れ



再生リンPRロゴ

横浜生まれの再生リンPRロゴ「はま巡リン」（はまめぐりん）を作成しました。「はま巡リン」は、再生・循環・サステナブルのイメージとして無限大のマークをもとに、再生リンから芽吹き、育つ食物の双葉をモチーフにしています。



はま巡リン
横浜生まれの「再生リン」

取組の経緯・内容・成果（見込み）

取組の経緯

ほぼ全量輸入に依存している肥料原料のリンを下水汚泥から回収することで、国内の資源循環と食料安全保障の強化にも寄与する取組。

2023年2月に国土交通省の「下水道革新的技術実証事業（B-DASHプロジェクト）」において横浜市と月島JFEアクアソリューション(株)の共同提案が事業採択。

下水再生リンを活用した肥料開発・製造、流通といった肥料利用促進について、横浜市・JA横浜・JA全農かながわの3者が協定を締結し、連携して取り組む。

取組の内容

「MAP※1により脱水ろ液※2からリンを効率的に回収する技術」により回収したMAPを肥料原料として活用した、再生リン入り肥料の流通を目指す。

※1 MAP：リン酸マグネシウムアンモニウム

※2 脱水ろ液：横浜市の下水汚泥処理フローのうち、脱水工程で分離する液体分。比較的高濃度のリン含有。

成果（見込み）

- ・ 最大約40トン/年のMAPを製造予定
- ・ 2024年6月25日にMAPとして肥料登録済み（よこはまMAP1号）
- ・ MAPを肥料原料とした、再生リン入り肥料を製造（2024年8月26日肥料登録済み）
- ・ GREEN×EXPO 2027に向けた植栽試験で、再生リン入り肥料の効果検証
- ・ 再生リン入り肥料は令和8年春肥から販売予定

今後の課題・取組

- ・ 2024年度にMAPを配合した再生リン入り肥料で試験栽培実施。
- ・ 横浜で2027年に開催される国際園芸博覧会「GREEN×EXPO 2027」での活用及び農業等での利用普及を推進する。



EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

【↓詳細はこちら↓】

